ISSN 1910—2396

野鳥だより

—北海道—

第 98 号

編集・発行　北海道野鳥愛護会

発行年月日　平成6年12月21日

トモエガモ

1994. 1 .15　　音更町　　撮影者　森田崇司

もくじ

私の探鳥地　(28) …… 栗林宏三 …… 2
鳥たちの歌あれこれ …… 新妻　博 …… 3
誌上写真展 …… 6
探鳥会報告 …… 9
霧晴れのエトピリカ …… 道場　優 …… 11
鳥民便り …… 12
探鳥会案内 …… 12

私の探鳥地(28)　―モエレ沼―

栗林宏三

私が年間を通じて一番多く足を運んでいるモエレ沼は札幌市の中心部から北東へ9㎞、豊平川が残した河跡湖で、周囲約9㎞で馬蹄型をした三日月湖です。現在、故イサム・ノグチ氏の設計でモエレ沼水郷公園として工事中ですが、徒歩での探鳥は自由に出来ます。

沼の氷が解け始める3月中頃、氷上にオジロワシ、オオワシを観る事が出来ます。氷が解けると、数多くのカモ類、アイサ類が沼に姿を現わします。キンクロハジロやミコアイサ等の特長ある姿を、対岸が近い為双眼鏡でも楽しむ事が出来ます。春秋はかなりの種類の水鳥を観る事が出来ます。カイツブリ等が繁殖しているので子育ての様子を観察する事も出来ます。水辺にはイソシギ、コチドリ等が観られ、記録ではアオアシシギ、オジロトウネン、ツルシギ、トウネン、ヒバリシギ、平成6年4月にはセイタカシギが観察されています。

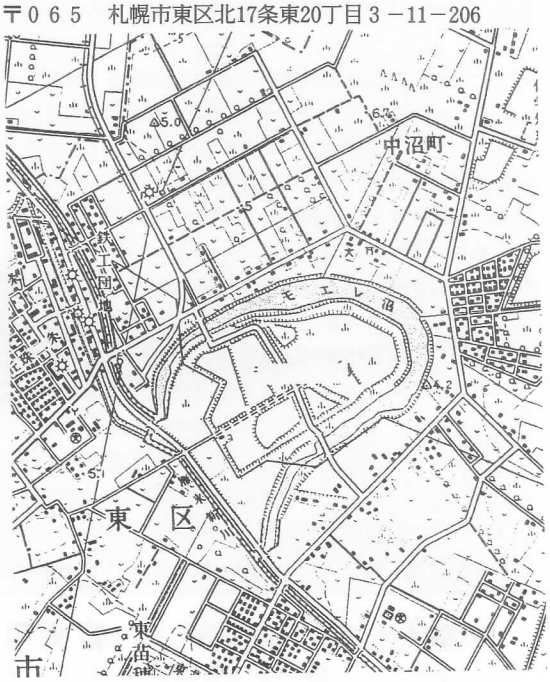
公園の西側にある草原では、季節になるとノビタキ、オオジュリン、ノゴマ、シマアオジ等が美しい囀りと姿を見せてくれます。公園内には植樹したものではあるが、緑が多く沼がある為、渡りの季節にはミソサザイ、ツグミ、クロツグミ、タヒバリ等も観られます。

平成5年、6年の2年間で観た鳥

カイツブリ、ハジロカイツブリ、アオサギ、トビ、オジロワシ、オオワシ、チュウヒ、ハイタカ、オオタカ、ノスリ、ハヤブサ、コハクチョウ、マガン、ヒドリガモ、ヨシガモ、コガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ミコアイサ、カワアイサ、コウライキジ、バン、オオバン、コチドリ、イソシギ、オオジシギ、カモメ、オオセグロカモメ、シロカモメ、ユリカモメ、キジバト、カッコウ、アマツバメ、アリスイ、アカゲラ、ヒバリ、ショウドウツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、タヒバリ、ヒヨドリ、アカモズ、モズ、ミソサザイ、ノゴマ、ルリビタキ、ノビタキ、クロツグミ、アカハラ、ツグミ、エゾセンニュウ、シマセンニュウ、マキノセンニュウ、コヨシキリ、エナガ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ホオジロ、ホオアカ、カシラダカ、シマアオジ、アオジ、オオジュリン、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、チュウサギ　以上75種

公園の工事が始まり、自然のブッシュや草原がなくなりました。又、公園の外では開発の波が押し寄せています。雁来新川の西側にあった王子製紙苗畑は、ゴルフ練習場、パークゴルフ場となり、近くの畑は「札幌里づくり事業」の工事中です。年々、鳥達にとって生活しにくい環境になって来ました。公園化と自然を残すと言う問題は難しい事ですが、色々考えさせられる場所です。

〒065　札幌市東区北17条東20丁目3－11－206



鳥たちの歌あれこれ　　新妻　博

ボクと野鳥とのつきあいは、中西悟堂さんの１冊の本『野鳥と共に』から始まりました。昭和15年７月23日発行の定価金二圓、送料金十四銭也、東京市神田區三崎町２－20　日新書院発行となっています。ザラ紙の本で、400ページにちかいもの。ところがこの本の末尾には初版序がついていて、昭和10年12月と印刷されています。この本には中西さんが自分で写された鳥の巣、卵、雛、そして棲息地の状況など67枚の写真があります。中西さんは僧侶の出身ときいていますが当時、歌人、詩人としても知られており、皆さんご存知の通り日本野鳥の会の創始者そして雑誌『野鳥』の編集発行者でもありました。詳しくご紹介するいとまはありませんが『野鳥と共に』には鳥の鳴声について実に詳細に書きとめてあって中西さん独特の表示による一種の記号付きの鳥声が示されております。鳥の楽譜です。これによっても中西さんはどんなに探鳥について鳥の鳴き声を重視されていたかと言うことがわかります。いまでいう『野鳥』という言葉も『探鳥会』も中西さんの命名です。

さて、ボクの鳥声の先生は山梨県の昇仙峡の近く敷島町に居られた中村幸雄さんです。営林局か林務署に勤めていたと聞いたことがありますが『声の仏法僧』の発見（確認）された人として全国に名を馳せた方です。北海道の各地で野鳥の話を、とくにブッポーソー物語りを言葉巧みにユーモアを交えて講演して人気がありました。退職後のことですから60才ぐらいだったと思いますが、この方と札幌の円山や近郊を探鳥して歩いて懇切な指導を頂きました。三度か四度くらい札幌に来訪されています。

ボクの鳥とのまじわりもかなり永いことになりましたが、道庁に居られ野鳥の会、野鳥愛護会の育ての親である斎藤春雄には特にお世話になり、終戦後のＮＨＫラジオ放送にもいろいろ協力を頂きました。また北海道大学の犬飼哲夫さん、野幌の林業試験場に勤務された井上元則さんにも特段の指導を賜りました。みんなボクの野鳥の先生です。犬飼さんは余りにも著名な動物学者ですからことさらに述べませんが、井上さんはあのエゾミユビゲラの発見者です。森林の昆虫の学者として知られておりますが、野幌が原始林と呼ばれていた頃のノッポロの主（ヌシ）でした。大沢のあたりは水が豊かでアカショウビンが手の届きそうな枝に止まってキヨロロロをくりかえし、ゴジュウカラがさかんに囀っていたころ、たびたびご一緒させていただきました。

この夏は酷暑のせいもあってか、いつもはすずやかに受けとめている鳥の鳴声にも嫌悪を感じることがあって、暑い暑い一夏でした。カラスは昔から『カラス鳴きが悪い』などと言って、事の吉凶を予知する霊力があると信じている人があるようで、なにかマガゴト、不幸が起きるのではないかとわざわざボクのところへ問いあわせにくる人がありました。これは野鳥に詳しい方ならどなたも知っている通り、カラスは巣立ちの後もかなり長い期間を哺育にあてることから、しきりに餌をねだる仔鴉の餌ねだりの賑わいです。とくにハシボソガラスの悪声と喧騒には閉口します。カアカアと澄んだ声のハシブトガラスにしても仔鴉の声はまだ濁声で甚だかしましい。

中国の古い訓（オシエ）に『烏ニ反哺ノ礼アリ』として、親の恩を忘れない子の篤行を讃えるコトワザがありますが、これは親よりも大きく育っている仔鴉を親と思いちがえての見立てでしょう。この時期の親鳥は子育てに疲れてひときわ小柄に見えるのです。

さて、本題に入りますが、ボクは近ごろ、『グラスを捨てて山へ行こう』などとカッコイイことをビギナーの探鳥ファンに申しあげているのですが、これは本気です。バードウォッチングは血眼（チマナコ）になって山野を遊行するものではないと思っているからです。

ゆっくりのんびりと鳥の声をたのしむというのが探鳥行の本領です。静かにしておれば、鳥の方から人間の方に寄ってくるはずです。視覚でとらえることも結構なことですが、こちらには鳥たちの生活を覗き見しているというヒケメがあります。見たからと言ってそれが減るものではありませんが、双眼鏡やスコープを近づけることはやはり不自然です。近寄るのを待って相互了解の上で見たり見せたりの関係は一層楽しいものです。ひとしく生きているという実感があります。スコープやグラスなどの器材は学者や専門の研究者にまかせましょう。スコープよ、双眼鏡よサヨナラと行きたい、というのがボクの本音です。肉眼で見ることの出来る喜びがいちばん。

バードウォッチングが増々さかんになって、まことに結構ですが、もう少し見て楽しむ方から聴いて楽しむ方へ方向を移してみることは大切だと思います。そうすれば鳥たちと人との関係はもっとソフトになるでしょう。実際に野山に出てみて感じることは、たくさんの野鳥がその中に生活しているのに姿を見ることはごく少いという嘆きでしょう。ベテランのバードウォッチャーは30種類も見たというのに自分はたった10種、といってガッカリする方もあります。そのちがいは、鳥の声を知っているかどうかに大きくかかわります。耳の訓練がよくできていれば、その鳥は何であり、その鳥はどんな木のどんな枝に、あるいは川ベリに草はらに…とおおよその見当はつくのです。そしてそのポイントを探すわけです。だから探鳥のコツはまづ鳥声ということになります。

かなりのベテラン探鳥家でもリストに記録した鳥の3割ぐらいは声しか聴かなかったという具合に姿と共に確認することはむずかしいのです。

鳥の鳴き声は種類によってちがうことはご承知の通りですが、同じ種類の鳥でもいくつかの鳴声をもっています。

そのちがいは大別して『地啼』と『囀り』ですが、地啼にもサインとしての警戒、呼びあいなどがあります。また、サエズリの目的はラブソング、テリトリーソングであることはよく知られていますが、その目的からはなれて一種のひとり遊びとも思えるグゼリがあります。グゼリは人でいえば鼻唄かもしれません。注意しなければならないのは、囀りのなかに他の種類の鳥のメロディ（フシ）を拾いこむのがうまい鳥がいることです。たとえばオオルリのある個体はクロツグミのフシを拾って織りこんで歌うことがあります。そのほかにモノマネ鳥のカケスという役者もいますし、どういうわけかモズも変

「鳥の楽譜」―「野鳥と共に」より抜粋（編集）

畑の上の電線では御機嫌の雀が

チイ（間）　チュル

と一聲づつに首を左右に振立ててゐる。

西空が次第に紫に暮れてゆく。三鷹村の街道へ出ようとする手前の農家の傍に一群のムクドリが

リャ　リャ　リャー　リャー

と喧しくわめいてゐたが、何羽ぐらゐの群か、梢の葉にこもつて騒いでゐるので數がわからぬ。

日が暮れた。自轉車の前燈を灯して井之頭公園へ入つたが一つの鳥の聲もしないので、まつすぐに家へ引返した。

註1。翌日もう一度、久我山へ出かけて、最初に三光鳥の鳴いてゐた農家の森に、その鳥が營巣してゐるのを確かめた。

その二、自宅で聽く鳥の聲

場所　善福寺風致地區。

六月二十七日。 家の裏の林で、朝まだきヒクヒナが鳴く。

ヒ゛ロ　ヒ゛ロ　ヒ゛ロ　ヒ゛　ヒ゛　ヒ゛　ボビ　ヒ゛　ヒ゛　ヒ゛

七月六日。 午前九時、三光鳥が鳴く。今年も近くで營巣してゐるのであらう。

午前十時、ヒクヒナが鳴く。

午後三時、隣家の庭の柘榴の木で、四十雀の幼鳥がしきりに鳴く。

ツン　ビ　ビビ　ジュク　ジュ

七月六日。 モズの雛の聲、裏の林にしきりなり。尾長喧しく鳴く。

七月十二日。 夕方、サンセウクヒ空を鳴き過ぐ。

七月十五日。 このごろ、林を隔てた葦原から、晝も夜もオホヨシキリの聲がきこえてくる。午後三時、聲の一つをノートする。

ギ゛　ギ゛　シ……ギ゛　ギ゛　シ……スキ　スキ　スキ　スキ

ココ　チチ　ココ　チチ　キ゛　ロロロロロロ　チ（綴く）

七月十九日。 裏の林でクッッコウが鳴きつづける。カッ　ポウ・カッ　ポウときこえるが、普通

な唄をうたって惑わせることがあります。いわば忍者的なあやしい奴です。地啼もよく注意しなければならないのはミソサザイとウグイス、あるいはアオジとホオジロなども要注意。ほとんど囀りをもたないと思われているシメの声にも多少の変化があるらしく、野鳥愛護会の先達で鳥の声についてはベテランの野口正男さんからシメにも囀りといえるものはありますと教えられました。そしてボクは今年はじめてそれらしい声をききました。とにかく鳥声はしっかりジックリ聴きとめなくてはなりません。

その判断を急ぐと失敗します。イカルは飛翔中でもサエズリを発します。またその地啼はアカゲラの声に似ているのでよく確めなくてはなりません。逆に飛翔中に鳴きつづけ天翔けるオオジシギは地上でもしきりに鳴きつづけます。とくに早朝あるいは霧の濃い日など。カワラヒワは都市でも海岸でも河川敷でも見かける愛らしい鳥ですが、大雪山系の千メートルぐらいの処にある山小屋で聴くと、別な鳥のように思えてくるから不思議です。

さきに述べた野口正男さんのことですが、いよいよ春という段になって鳥の声をきくと、ハテ何ダッタケ…と一瞬とまどってしまうと言っておられます。半年というブランクが記憶を稀薄にしてしまうのです。鳥の声はいつもよく聴いていないと忘れてしまうものなのです。野口さんのようなベテランにして然りということです。

ハクセキレイとキセキレイはやや生態の異るところがあるようですが札幌近郊ではほとんど似たような処に生活しています。もっともハクセキレイはかなり自由で、海浜にも畑地にも渓流にも市街にもその場をひろげていますが、キセキレイは渓流のほとりまれに人家あたりを場としています。この二種が一緒にいる場合は大てい清流のほとり、そこでは囀りも地啼もかなり似ているので迷いますが聴きなれれば地啼に特徴があることが判然します。セグロセキレイの場合はハッキリと渋い濁り声。

幾通りもの歌をもっているものとしてカワラヒワのコロコロ、チチチジュイーン、キリキリなど始めての人には説明がむずかしい。コルリには三ツの歌があり、それの交互のくりかえしですからコマドリのヒンカララとは区別できます。またコルリには歌のはじめに三輪車をこぐようなキッキッキッという前引きがあります。これらがポイントです。カワラヒワと共に市街地、住宅地、林などどこにでもいて、たくさんいるヒヨドリはどなたの眼にもつきますからマチガイはありませんが、ヒヨドリは眼をつぶってきけば解らなくなるほどたくさんの歌をもっています。このヒヨドリのおしゃべりには参ります。その時の気分でやられてはかないません。ジュウイチまがいの声を出す時もあります。キビタキはほんらいオーシック、ときにはチョットコイの歌をもっていて、さかんにそれを披露してくれますが、あのチョットコイはキビタキ自身の声であってかのコジュケイの声の物真似ではありません。コジュケイが狩猟のための、いわゆるゲームバードとして本州に移植されるずっと以前からキビタキはあのように鳴いていたのです。一方、ウグイスはわりと歌の学習が得意のようです。むかし三鳴鳥のひとつとして飼育されていた頃は、声良しの師匠鳥につけて歌を習わせていました。付け仔といったそうです。これで審査の対象となる三声を揃えて競ったという事です。昭和の始めころボクは修学旅行で高野山に詣でたことがありますが、あそこは実にウグイスの多いところで、そのそれぞれが切れ味のわるいホケキョをくり返すのです。それは茶店で売っているウグイス笛の音によく似ていました。子供たちがたわむれに吹き鳴らすウグイス笛を真似たものとしか考得られません。あれから60年、高野山のウグイスの声はどうなっているでしょうか。

鳥の種類の識別は、姿、声、飛翔型、色彩の総合で判断するのが普通ですが、念のため季節、地理なども考慮に入れて考えなければなりませんが。そこに鳥が居るということの発見が始まりです。その存在証明は、見た、と聴いた、の二つのいずれかです。鳥声という存在のサインをしっかりふまえ、その姿の発見ということが圧倒的に多いのです。声だけで決定できるカッコウなどは別にして、ほかの鳥は声と姿とあわせて判断しなくては正確にはわかりません。そして鳥の鳴き声はとても複雑ですから野山に出かけて実際に聴くという経験を重ねることが大切です。囀りの終った夏、渡りの秋、留鳥の冬いづれの季節にもフィールディングに励みたいもの。

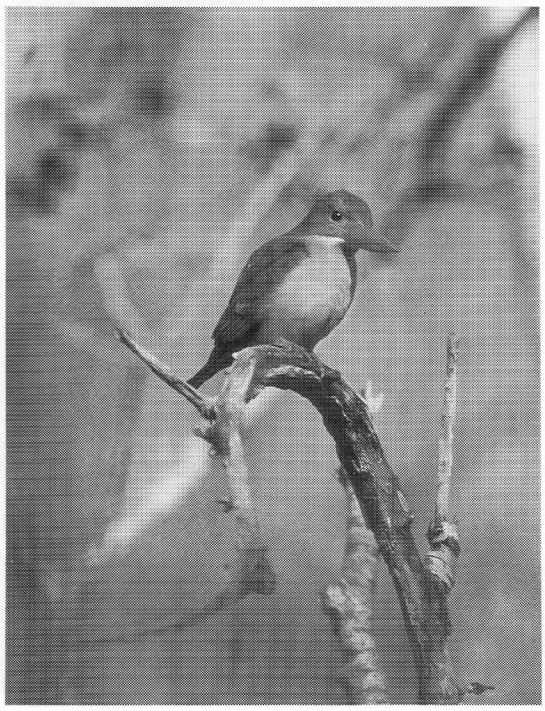
大正時代から始められた中西悟堂さんの野外観察が昭和に入って実をむすび富士山麓須走の初めての探鳥会となり、雑誌『野鳥』の創刊につながった歴史は貴重ですが、今や探鳥会の命名も時代に沿わなくなった感じがします。自然を観察するという態度には何かしら人間優位の思想が根底にあるような気がします。言葉をバードウオッチングと替えてみも然りです。鳥の世界の学術研究は別ですが、私たちと野鳥たちのかかわりは、中西さんの著書の標題のように、あくまでも『野鳥と共に』でありたいと思います。鳥とふれあうことの喜びに満ちたバードウオッチングへ、グラスを捨てて鳥に会うために野に出よう。カメラを捨てて野に出よう。これがボクのねがいです。

〒005 札幌市南区真駒内南町1丁目6－1

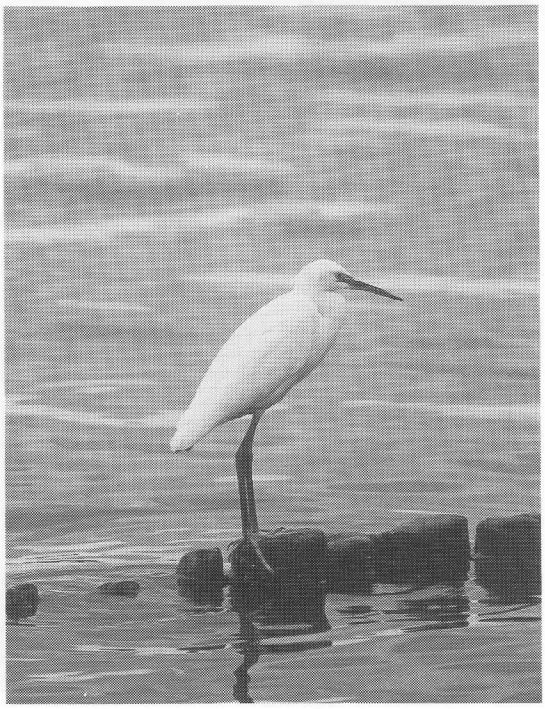
誌上写真展

―― 平成6年度 ――

エレナードギャラリー　　佐々木　武　巳



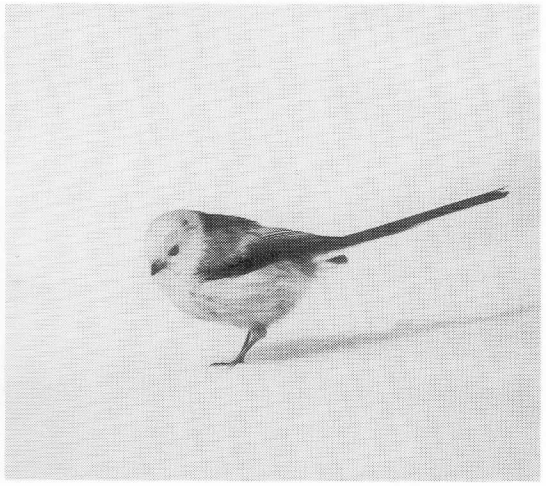
アカショウビン　　山　田　良　造



ヨ　サ　ギ　　新　城　　久

シロハヤブサとトビ　　石橋孝雄

ゴジュウカラ　　荻原俊男



エナガ　　柳沢信雄

シマアオジ　　渋谷信六

オグロシギ　　小堀煌治

ベニマシコ　　石橋美津子

オオルリ　　香川　稔

ハイタカ　　荻原俊男

コゲラ　　山本　一

コムクドリ　　佐藤　勇

ギンザンマシコ　　志田博明

コメボソムシクイ　　三船喜克

鵡川河口の探鳥会に参加して

6．8．28

蒲　澤　鉄太郎

毎回送られてくる北海道ウオッチングガイドに北海道野鳥愛護会主催の探鳥会が鵡川河口で行われることを知り、今回参加させていただきました。

旭川は、川の街と言われるほど、川がたくさんありますがシギ類に適した適当なひがたがなく、あまり観察できませんので一度鵡川河口に行きたいと思っていたところです。

途中、一泊しましたが、今日はどんな鳥にあえるのかと胸がわくわくして、集合場所の鵡川駅前に9時前についてしまいました。

柳沢会長様がお見えになっておりましたので、昨年旭川野鳥の会が、支笏湖での探鳥会で大変お世話になりましたお礼を申し上げたところ、皆様にご紹介をいただき、大変恐縮いたしました。

皆様に、ご親切に声を掛けていただき、愛護会の会員でないかと錯覚しそうなほどでした。早速トウモロコシ畑の近くで皆さん双眼鏡をのぞいていたので、近づくとイソシギがいるとのこと、こんなところにと、急いでスコープをのぞくと居ました。今までイソシギは、水辺でばかり見ていましたのでオヤッと思い、大変勉強になりました。また、キセキレイかなと思ったのがキマユツメナガセキレイとか、確認出来ればサロベツ原野以来、残念でした。

ムナグロも久しぶりでしたが、この日のハイライトは、なんといってもヒバリシギで、目の前7～8メートルのところで観察でき、大満足しました。どなたかが、今日の探鳥会は、これで大成功の声がありましたが同感でした。

鵡川対岸の浅瀬でコチドリ、少し離れてコチドリと間違いそうなメダイチドリを教えていただきました。またアオアシシギも初対面でした。ソリハシシギ、の声がありましたが、残念ながら確認出来ませんでした。

昼食後、鳥あわせで33種、シギ類の多いのに感心しました。

またもう一度の思いと、満足感にひたり、一路帰途につきました。

来年札幌に帰る予定してますので、そのときはぜひ仲間に入れてください。

本当に楽しい探鳥会に参加させていただきありがとうございました。

〒078　旭川市東光9－4－2－21

［記録された鳥］アオサギ、トビ、チュウヒ、オオタカ、マガモ、ムナグロ、コチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、アオアシシギ、ソリハシシギ、イソシギ、ヒバリシギ、ハマシギ、ウミネコ、オオセグロカモメ、シロカモメ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、ショウドウツバメ、ツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ノビタキ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、キマユツメナガセキレイ、ドバト　以上33種

［参加者］酪農大学；宮城国太郎、富村高志、清水園子、大末圭生、山田睦喜、小西敢、持田、柳沢信雄、白澤昌彦、山田甚一・れい子、蒲澤鉄太郎・則子、渋谷信六・弘子、三船喜克・幸子、野口正男・キヨ、成田賢英・ふみ、相木大嗣・孝子、山田良造、野坂英三、森下美保、井上公雄、西田都、山本次郎、石橋和子、佐藤幸典、成澤里美、道場優、大衡則雄、佐藤ひろみ、栗林宏三、高柳国雄、森田新一郎、森下徹、松浦哲、佐藤勇、溝井茂、久田伸一、鷲田善幸、加藤寿夫、加納勉　以上46名

［探鳥幹事］井上公雄、道場優

平和の滝　夜の探鳥会

6．6．4(土)　くもり時々晴

6：35－8：30PM　気温11℃（少し寒い）

〔記録された鳥〕コルリ、クロツグミ、キビタキ、キセキレイ、ヨタカ、マガモ、コノハズク、ツツドリ　以上8種

〔参加者〕善本洋子、佐藤ひろみ、長谷川稔、金子由美、中出昭、澤田修・わか子、高柳国雄、永島良郎、佐々木武己、野口正男・キヨ、栗林宏三、道場優、三枝肇・晴美、野坂英三　17名

〔担当幹事〕佐々木武己、永島良郎

鵡川・雨の探鳥会

6．9．11　　相　木　孝　子

2週間前、当地での探鳥会に初めて参加し、たくさんの鳥たちと出会い、この次も…と楽しみに待っていました。しかし、この日は天気が悪く、誰も来なかったらどうしよう…など心配しながら鵡川へ行くと曇り、今にも雨が降ってきそうな空模様でした。

歩き始めてまもなく、鳥の姿が見えました。

とはいってもまだ初心者の私。双眼鏡を覗いてやっと見

つけた姿もそれが何だかわからず、声を聞いても何だかわからず、あれこれ考えているうちに「色のはっきりしていないのがハクセキレイの幼鳥、腹の黄色のがキセキレイだよ」と親切に教えていただき、心の中でなるほど幼鳥は少し違うのか、と思う一方でわからないことがあったら何でも聞こうと思ってまた歩きだしました。
それから鳥の姿を見つけては「あっ！何か鳥がいる」と言ってベテランの方々に教えていただいた。ヒバリやノビタキなど特にめずらしい鳥ではないのでしょうが、じっくりと見ることができました。

ツバメ達がすぐ頭上、手の届きそうな所で飛ぶ姿を見ている頃、風が強くなり雨も少し落ちてきたので、少し足を速め川へと向いました。
対岸にアオアシシギ、メダイチドリ、オオソリハシシギなど水鳥がいましたが、私がしっかり確認できたのはアオサギだけで、他の鳥も見ようと双眼鏡を持つと風が強い為に手が震えたりレンズに水滴がついたりで何となくポイントはわかるのですが、はっきりと見ることができず、ちょっと残念でした。

この秋、初めて水鳥を見て草原や森林の鳥とは違う動きのおもしろさなど、ほんの少しだけでも知ることができ、また来年の春どんな姿を見せてくれるのか、今からとても楽しみです。
今回、悪天候にもかかわらず、いろいろ教えて頂きありがとうございました。
また探鳥会に参加させて頂きたいと思います。
〒063　札幌市西区発寒７条７丁目７－14
［記録された鳥］カイツブリ、アオサギ、トビ、ダイゼン、コチドリ、メダイチドリ、オオソリハシシギ、アオアシシギ、タカブシギ、ウミネコ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、キジバト、ヒバリ、ショウドウツバメ、ツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ノビタキ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ドバト以上24種
［参加者］相木大嗣・孝子、加納勉、岸妙子、栗林宏三、小堀煌治、佐藤ひろみ、高橋利道、中正憲佶・弘子、柳沢信雄　以上11名
［探鳥幹事］小堀煌治、栗林宏三

宮島沼・鏡沼探鳥会

6. 10. 16　　五十嵐　辰　美

愛護会の道場優氏や他の会員の方々と初めて探鳥会に参加させていただき、それ以来野鳥の美しさに心を奪われ、探鳥に行けば行くほど鳥たちが身近な存在となり、愛らしさが感じられ、今回は野鳥愛護会主催の宮島沼への探鳥会に参加する事となり、当日前夜は基礎知識として図鑑の絵を見ながら少しでも水鳥の名前や特徴を覚えようと努力し、それなりに興奮した夜を過ごした。

当日一緒に参加する他のメンバーと宮島沼へ向う車中での話の内容は、殆どが鳥の話。そして、矢ガモ事件や狩猟で使用される弾による鉛中毒で死亡する鳥たちの事が中心となり、現在の宮島沼では狩猟を自主規制しているとの事で、鳥たちにとっては一生の安住の地であってほしいと願わずにはいられない。

宮島沼に近づくにつれ湖面の上に黒い物体が水面を隠すようにゴロゴロと浮いているのが見えはじめた。そして、上空にはマガンらしき鳥の編隊が飛び交っているのが見える。駐車場に着いたが、空模様が怪しく今にも雨が降りそうだが、すぐに雨が降ってきた。

宮島沼に集まってきている鳥の情報説明を聴きながら、三脚を立てプロミナを覗くと湖面上の鳥たちが同じに見える。昨夜図鑑に出ていた鳥は何処にいるのだ。

隣や後ろの人に鳥の名前を聴きながら、ポケット図鑑で確認していく。

思い起せば最近までマガモとマガンの区別もつかず、水鳥を詳しく見た事もない私が、たった一晩図鑑を見ただけで鳥の種類や名前を確認できるはずがなく、道場氏や愛護会の方々に御指導をいただき、この日だけで15種類もの水鳥が確認できた事は、予想以上の成果と成った。

この宮島沼で翼を休めているカモ類とガン類を観ているうちに、理不尽にも狩猟鳥獣と言う名目で罪もないのにカモ類は大量虐殺され、ガン類は鳥を守る法律と条約で守られており、同じ水辺の鳥でも数が多いと死、数が少なければ生、と言う矛盾があり、如何に人間の独裁的な発想であるか、愚かさを見たような気がした。
〒065　札幌市東区北15条東３丁目10
［記録された鳥］
★宮島沼
カイツブリ、ミミカイツブリ、ハジロカイツブリ、トビ、オジロワシ、コハクチョウ、マガン、ヒドリガモ、コガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、キジバト、カシラダカ、ニュウナイスズメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス以上22種。
★鏡沼
カイツブリ、コガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、ハシブトガラ、シジュウカラ、カシラダカ、ニュウナイスズメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス以上12種。
［参加者］桝川保・弘子、森茂太・純子、相木大嗣・孝子、永島良郎・トキ江、道場優、五十嵐辰美・加代子、戸津高保、吉田隆、小田恵、橋本和昭、山田良造、森田新一郎、橋本昌子、小堀煌治、佐藤幸典、柳沢信雄、杉田範男、竹内強、佐藤ひろみ、加藤花子、吉田幸子、高

柳国雄、渡辺繁、白山とめ、早川いくこ、野中成龍、若林信男、森田博、野坂英三、牧野洋子、草野貞弘　以上36名。［探鳥幹事］山田良造、永島良郎

野幌探鳥会

6. 10. 23　　榛葉貴博

静岡から北海道に来て５年目の学生です。トラツグミを見たいと思ったのをきっかけに、鳥を見に行き始めて半年余り。まだ、トラツグミは見ていないのですが、いろいろな鳥を見に行くことで森林に入ったりするようになり、様々な鳥や野の花、草木にも興味がでてきた今日この頃。

今回が、初めての野鳥愛護会の探鳥会への参加で、また野幌での探鳥会も初めてでした。明け方に降っていたみぞれは止んだものの、朝の空はちょっと雲が多く天気はあまり良くなかったのですが、ＪＲで野幌に向かうときには、まあまあ良い天気になってほっとしました。コンビニエンスストアーなどで集合場所の大沢口までの道を聞いて、なんとか時間までに集合場所に行くことができ、探鳥会に参加できました。

なかなか沢山の鳥を見ることができ、今回初めてハイタカとヤマゲラとカケスを見ることができました。（他にも初めての鳥も出たのですが、ちらっとしか見れませんでした。とくに、ルリビタキは初めてでじっくりと観たかったのですが、本当にちらりとしか見られず残念でした。）また、ヤマゲラは、リーダーの方々の立派な望遠鏡でじっくりと観察することができ、その美しさにため息がでました。図鑑などでしか知らなかった鳥を実際見てみると、いつも何ともいいがたい驚きを感じ、とても新鮮な気持ちになります。

また、野幌の自然も素晴らしく立派な木も沢山あり、こもれ日の中の紅葉は鮮やかでとても良い気分でした。（今年の紅葉は、そんなにすごくはないという話しも聞かれますが、それでもやはりとてもきれいでした。）

探鳥会に参加して、とても良かったと思うことは、鳥のことや植物のことを良く知っておられる方々に、自分では良くわからない鳥や草木のことを教えていただけるということです。自分たちだけのときだと、鳥を見て、あの鳥はなんていう鳥だろうと思って図鑑を見ても良くわからないことが多いのですが、探鳥会ではいろいろと教えていただけるのがとてもうれしいです。

ちょっと寒い一日でしたが、とても楽しくすごすことができました。野鳥愛護会の皆様、また、いろいろと教えてくださった方々、本当にありがとうございました。

また、参加させていただきたいと思います。

〒001 札幌市北区北20条西２丁目 サンコーポラス札幌304

［記録された鳥］トビ、ハイタカ、コゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ヒヨドリ、ルリビタキ、クロツグミ、ツグミ、ウグイス、キクイタダキ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、メジロ、カシラダカ、アオジ、クロジ、カワラヒワ、ウソ、イカル、カケス、ハシブトガラス　以上26種

［参加者］井上公雄、小川祐子、香川稔、栗林宏三、後藤義民、佐藤ひろみ、榛葉貴博、須藤昌三、永島良郎・トキ江、野坂英三、船越昭則、柳沢信雄、山田良造　以上14名

［探鳥幹事］野坂英三、佐藤ひろみ

霧晴れのエトピリカ

道場　優

エトピリカ、アイヌ語で「美しい嘴」の意を持つ。あの特異な、まるで道化師が特別なメイクをした様な顔。探鳥歴の浅い私でも知っている鳥。それが幸運にも、この眼で現実に見ることができたとは。今もあの時の感動と興奮は、この胸に残っていて忘れられない。

夏も近いある日、鳥に興味を持って間もない友人のＩ氏が、突然「エトピリカを見に行こう」と言う。私は今はほとんど見られないと聞いていたので、行くだけ無駄と断念を推めた。しかし、Ｉ氏の決意は固い。情報を得ようと羽田恭子さんに電話をする。ところが、なんとこの７月に霧多布で３羽も見てきたと言う。かくして、にわかに現実味を帯びて出発することとなった。

７月24日、早朝霧多布へ向けて出発する。釧路までは好天に恵まれてのドライブ。しかし、霧多布に着く頃には濃い霧の中。４日間も霧とのこと。岬にテントを張り、霧笛の音を恨めしく聞きながらいつしか夢の中へ。

朝、外は濃い霧。私にせかされて目的のアゼチ岬へとしぶしぶ動く。ところが小島ははっきりと見える。現金なもので、Ｉ氏の眠け眼はしっかり開き、教えられた場所を捜す。海の上をゆっくりとプロミナを移動させる。「いた！」胸がドキンと鳴った。Ｉ氏も確認し、彼はかすれた声で「いた。いたよ！」と。波間に２羽の、夢にまで見たエトピリカが浮かんでいる。赤い嘴、そして、黄色の飾り羽根。図鑑通りだ！２羽が互いに嘴をくっつけ合って求愛行動をしている。「かわいい」と妻は叫んでいる。さらに１羽が飛んで来て、合計３羽となった。波の間に間に見え隠れしながらの彼等の行動を、４時間も飽かずに見続けた。いつしか霧が岬を覆っていた。岬を去る時、私は心から「エトピリカよ永遠に」と祈らずにはいられなかった。最後に貴重な情報を下さった羽田さんに心より感謝申し上げます。

〒002　札幌市北区篠路町太平147－77

鳥民便り

◆新年スライド会等について

恒例の新年講演会とスライドの会は、25周年記念事業の一環として、次のように変更して開催いたします。

［藤の沢］ 平成７年１月22日（日）集合＝10時　白鳥園（南区藤の沢693－１）
交通＝定鉄バス（定山渓線）
藤野３条２丁目下車、徒歩20分　**探鳥とスライド映写会**
参加費＝500円

［記念講演会］

５月の愛鳥週間に合わせて開催いたします。詳しくは次号でお知らせいたします。

◆写真展の作品のご用意を

平成７年度も野鳥写真展の開催を予定しております。みなさんの自信作の準備をお願いします。応募要領は下記の通りです。なお、営巣中の写真などはご遠慮ください。

［募集要領］

・大きさは四ツ切りとしカラー、白黒は問いません。
・応募写真は野鳥の種名、撮影年月日、撮影場所及び撮影者氏名を明記してください。
・締切日　平成７年４月15日（土）
・送付先　〒003札幌市白石区栄通り８丁目３－11
柳沢信雄会長宅（電話011－851－6364）

◆オオハクガンについてお知らせ

平成６年４月24日「宮島沼探鳥会」のとき、星子先生からオオハクガンが一羽飛来していることをスライドなどを通してお教えいただきました。その後、関係者の方々から鑑定依頼された山階鳥類研究所（千葉県我孫市）が、「亜種オオハクガンに間違いない」と確認しました。
（道新　平成６年10月13日夕刊）

探鳥会

［野幌森林公園］

平成７年２月12日（日）

寒さが一番厳しいこの季節でも鳥達は元気な姿を見せてくれています。その姿を見ようという雪の中の探鳥会です。カラ類やキツツキ類などを中心に観察します。その年によって違いますが、ツグミ、レンジャク類、アトリ、ウソ、マヒワなどの冬鳥に出会えたらと思っています。中でもクマゲラに出会えたら最高です。また、雪の上に残るノウサギやキツネなどの足跡ウオッチングもこの季節ならではの楽しみです。スキーでも冬靴でも参加できます。
午前９時　大沢駐車場入口集合

［円山公園］　平成７年３月５日（日）

厳しかった冬もようやく終わり、少しずつ春を感じてきた季節の円山公園内の散策と餌台に集まる鳥を中心に観察します。カラ類やキツツキ類が中心ですが、イスカやベニヒワ、レンジャク類に出会ったこともあります。午前中に解散しますので、参加下さい。
午前９時　円山公園管理事務所前集合

［ウトナイ湖］　平成７年３月26日（日）

春の北へ帰るガンカモ類を観察します。マガン、ヒシクイ、オオハクチョウの他多くのカモ類が集まります。繁殖を控えて、きれいに換羽したカモの雄をじっくりと観察します。中には、ホオジロガモのように求愛のポーズをするものも観察できます。また、オジロワシやオオワシの雄姿も見ることができます。長靴の用意をして参加して下さい。
午前９時40分　ウトナイレイクホテル湖畔側

［野幌森林公園］　平成７年４月16日（日）

雪も解け始め、草木も芽吹き、ようやく春らしくなってきた公園内を散策します。春の訪れを感じさせるフクジュソウがかわいい花を咲かせ、アオジやウグイスが冬の終わりを告げるように囀り始めます。中でも、この時期にしか聞けないキバシリの素敵な囀りを一度聞いてみて下さい。
まだ雪が多い所がありますので長靴が必要です。
午前９時　大沢駐車場入口集合

［宮島沼］　平成７年４月23日（日）

北へ帰るガンカモ類を観察します。宮島沼は北へ帰るガンの国内最後の休憩地で、最高時には２万羽近いガンを見ることができます。シジュウカラガンやカリガネなどが観察できたら最高でしょう。また、多くのカモ類やカイツブリの仲間も見られます。春になったとはいえ、まだまだ寒いところですので、防寒の用意をして下さい。
午前10時　大富会館前集合

［野幌森林公園を歩きましょう］

平成７年４月９日（日）
午前９時　大沢駐車場入口集合
※いづれの探鳥会も余程の悪天候でない限り行います。
探鳥会の問い合わせは　011－771－7866　矢野宅まで